

ベネズエラ東部の旅から

高橋 均

この夏（2007年）に、シモン・ボリーバルSimón Bolívarの足跡をビデオにとってスペイン語のAV教材を作る目的で、ベネズエラ東部のバルセロナBarcelona、クマナCumaná、マルガリタ島Isla de Margaritaをまわってきた。ボリーバルは1816～17年にかけて、独立派が蜂起し

ていたマルガリタ島を基地としてバルセロナを攻略し、西のカラカスと東のクマナをおさえるスペイン軍の間に割って入る形となった。しかし、やがて根拠地を南のオリノコ河流域グアヤナGuayanaに移し、バルセロナはスペイン軍に取りかえされてしまった。

もともとベネズエラ東部はボリーバルとは別系統の、マリニヨSantiago

Mariñoという人を指導者にいただく独立運動の根拠地で、この一派はあまりボリーバルの言うことをきいてくれない。ところがマリニヨの部下にスクレAntonio José de Sucreという有能な青年がおり、ボリーバルはかれをいわば一本釣りにひき抜いて、エクアドル・ペルー・ボリビア遠征の際に自分の副将にした。1824年にペルーのアヤクチョの合戦でご存じの大手柄をたてるのだが、この人はクマナの出身である。。

だが、歴史のはなしを始めるときりがない。旅のはなしをしましょう。





バルセロナは1671年にできた町で、カラカスより百年ほど新しい。町の名前は最初期の入植者にカタルーニャ人が多かったためだという。

カラカスからバスで行った。夜明けがたに出発して、長い長い谷をくだり、さらにトゥイ川下流域の密林がいつ果てるともなく続いた。やがて樹高が低くなり、ひなたくさい熱帯灌木林になった。灌木の育ちが潮っぽいな、と思ったら、案の定左手に海が見えた。

すぐにウナレ湖Laguna de Unaréの湖畔に出た。道はビーチ沿いに行く。「海の家」と呼びたいようなしけたホテルをいくつも過ぎる。地面は乾燥してきてハシラサボテンが散見する。湖水は泥で白茶けている。

いきなり地形がそこだけ山っぽくなって切り通しをこえるとクラリネスClarinesである。街道からはクラリネスの町は見え、リゾートセンターの門前が駐車場だった。発車して少し行くと川を渡る。高井戸の神田川くらいの水量だが、これがウナレ川で、汽水湖であるウナレ湖に淡水を流しこんでいる。あとバルセロナまで60キロほどである。

川のほとりだからサバンナとはいえ少しは樹高が高い。ここは古戦場である。バルセロナを根拠地としたボリーバルは、カラカス方面の敵の実力をさぐるうとしてウナレ川まで前進し、1817年1月9日、クラリネスの守備隊に一撃をくわえた。

しかし敵は強かった。これより先、ボリーバルの攻勢により、クマナをのぞく全東部のスペイン軍は西へ向かって退却した。退却の過程で弱兵は散ってしまい、クラリネスに集結したのは強兵ばかりである。ボリーバルはあっけなく負けてしまった。



このウナレ川は大事な川で、植民地時代にはベネズエラ県（首府カラカス）とヌエバ・アングルシア県（首府クマナ）の境界であった。実はその水源は150キロも南にある。この川がうがった河谷によって、オリノコ川流域の広大な平地（リャノスLlanosと呼ばれる）はただ一箇所、ここだけ海岸までひとつづきになっている。カラカスからもクマナからもリャノスに出るには山越えがあるのに、ここだけは、ひなたくさい灌木林がそのままずっとオリノコ河畔のサバンナに通じているのである。この回廊を通してボリーバルはセデニヨ Manuel Cedeño やサラサ Pedro Zaraza らリャノスのゲリラと連絡をとり、やがては自分自身グアヤナへ移っていった。

バルセロナは雨だった。私は日本の夏休みにしか南米に来られないので、ベネズエラでは雨男だ。狭い街路を川と化すくらいの熱帯性のどしゃぶりである。そのために歩道が高く作ってあるが、街路が狭いから歩道はなおさら狭く、幅50センチほどなので閉口する。夕立かと思ったが雨季だからなかなかやまない。暗くなつてはものが見えないので、雨を冒して、町の中心部だけはひととおり歩いた。

表通りの人出や店頭の商いで見た感じでは景気は上々である。イラク戦争以来原油が高いからベネズエラは経済がいい。地方都市までうるおっている感じだ。横道に入ると植民地時代の町割りと町並みがきれいに保存され、月並みだけれどなつかしく美しい。

町の真ん中には史跡公園「カサフエルテ Casa Fuerte」がある。一ブロックをまるまる占領しているフランシスコ会の修道院の廃墟である。もう門が閉まっていたが入れなかったが、鉄柵の外をぐるりとまわって見た。



ポリーバルがグアヤナに去ったあと、バルセロナには500人ほどの守備部隊だけが残っていたが、突然クラリネス方面からスペイン軍が大挙して攻めてきた。やむなく守備部隊は、あらかじめ要塞化してあったこの修道院にたてこもり（fuerteはこの場合「防御工事をほどこした」の意味）、独立派の市民も老若男女合わせて1000人ほどが逃げこんだ。1817年4月7日、スペイン軍はカサフエルテを遠巻きに包囲し、一キロ足らずの距離に野砲を並べて建物を撃ちくずしにかかった。建物は守備部隊と市民の頭上に崩れ落ち、つづく掃討戦で戦闘員・非戦闘員合わせて1000人ほどが命を落とした。

バルセロナだけで字数が尽きたので、ひとまずこれでおしまい。